

<佐渡奉行所略年表>

年号	西暦	事項
慶長6年	1601	相川金銀山が発見される
慶長8年	1603	大久保長安が佐渡奉行所を相川に開く
元和5年	1619	佐渡一国通用の印銀を造る
元和7年	1621	佐渡において小判製造が始まられる
正保4年	1647	火災により奉行所焼失する（翌年再建）
元禄4年	1691	割間歩より南沢へ水貫坑道の掘削が始まられる
正徳2年	1712	奉行が二人役となり交代在勤となる
寛延元年	1748	火災により奉行所焼失する（翌年再建）
寛延3年	1750	寛延の百姓一揆がおこる
宝暦11年	1761	一国通用の印銀を廃止する
寛政11年	1799	火災により奉行所焼失する（同年再建）
文政2年	1819	小判製造を止め焼金のまま上納する
天保5年	1834	火災により奉行所一部焼失する（翌年再建）
天保9年	1838	天保の百姓一揆がおこる
天保14年	1843	奉行が一人役となる
弘化3年	1846	奉行が二人役に戻る
安政5年	1858	火災により奉行所焼失する（翌年再建）
文久2年	1862	奉行が一人役になる
慶応4年	1868	佐渡奉行所廃止。佐渡県となる
昭和4年	1929	佐渡奉行所址が史跡指定される
昭和17年	1942	旧奉行所の建物が全て焼失する（翌年史跡指定解除）
平成6年	1994	佐渡金山遺跡として奉行所を含む7ヶ所が国の史跡に指定される



—金精製に使用された鉛板—

ご案内

●開館時間

午前8時30分～午後5時

※午後4時30分までに入館ください

●休館日

年末年始（12月29日～1月3日）

●入館料（15名以上 2割引）

大人（高校生以上） 500円

小・中学生 200円

●問い合わせ

史跡佐渡奉行所跡

新潟県佐渡市相川広間町1-1

TEL 0259-74-2201

FAX 0259-74-2201

さどぶぎょうしょあと 史跡 佐渡奉行所跡 おやくしょ 御役所



ようこそ史跡佐渡奉行所跡へ！

ここ相川には江戸時代
佐渡金銀山を管理するために
奉行所がおかれていました
佐渡奉行所には

行政を行なう御役所だけでなく
金や銀などを精製する工場（勝場）や
奉行などが住む陣屋がありました

江戸時代、佐渡は金銀山があったため、江戸幕府が直接管理する天領^{*}でした。佐渡奉行所はその江戸時代の初め、慶長8年(1603)に建てられました。

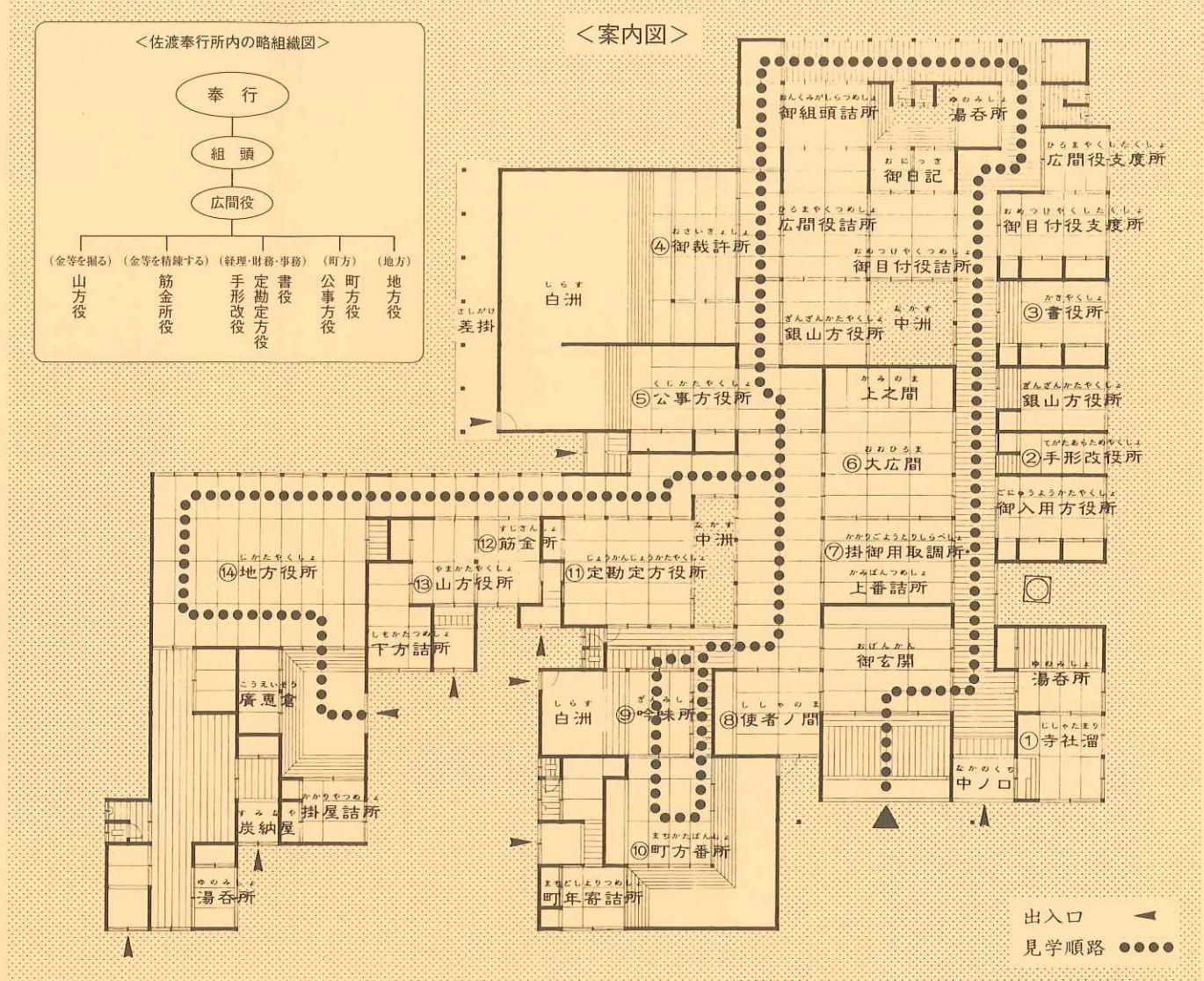
*幕府が軍事上・経済上重要な場所として直轄した領地

御役所は佐渡奉行所の中央にあり、とても重要な建物です。ここは現在の役所と裁判所を兼ねた役割をしていました。また、本来は御役所の後ろには奉行の住む陣屋が続いており、この2倍近い広さを持つ建物でした。

佐渡奉行所は、江戸時代初めに建てられてから、焼失と再建を5回繰り返し、その都度建て直されてきました。明治維新後は、役所や学校として改築されながら使われていました。そして、昭和4年、国史跡に指定されましたが、昭和17年の火事によって全てが失われました。

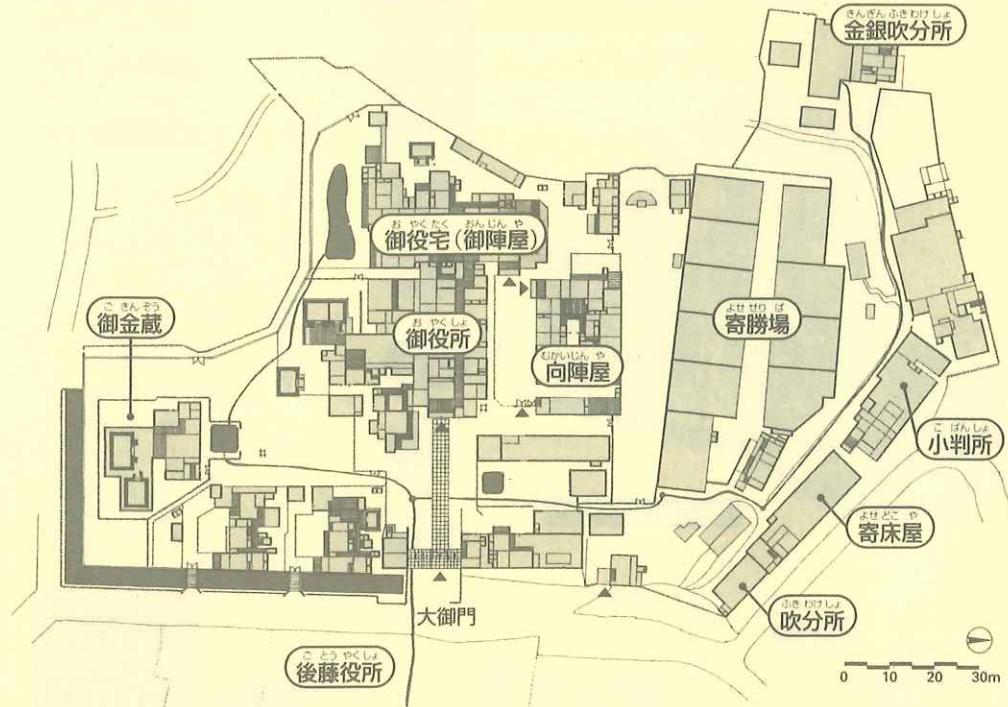
平成6年、再度国史跡に指定されたのを受け、佐渡奉行所跡を来訪者により分かり易く理解してもらうために保存整備事業が始まられ、平成12年度に佐渡奉行所(御役所部分)が復原されました。

スタンプ位置



〈部屋の説明〉 (部屋の使われ方については現在研究中ですが、分かっている範囲で記します。部屋名は文久年間の絵図によります。)

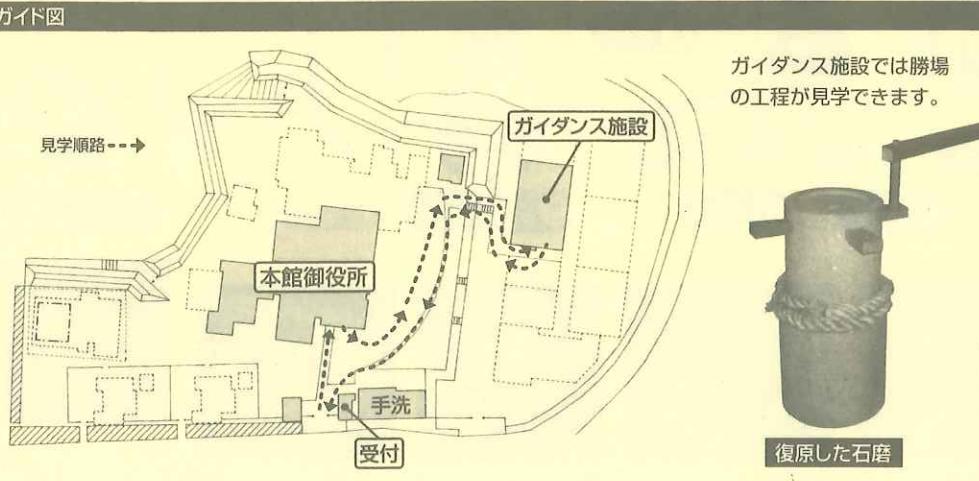
- ① 寺社溜 — 寺の住職や神社の神主が控える部屋
- ② 手形改役所 — 手形や書類を確認する部屋
- ③ 書役所 — 役所内に関する事務的な仕事を書き留める部屋
- ④ 御裁許所 — 白洲に被疑者がいて判決を言い渡す場所
- ⑤ 公事方役所 — 訴状によって双方を呼び出し調べる場所
- ⑥ 大広間 — 広間役が用事を言い渡す部屋
- ⑦ 掛御用取調所・上番詰所 — 広間役から出される用事を調べる部屋
- ⑧ 使者ノ間 — 使者を待たせる部屋
- ⑨ 告本所 — 町人の訴状を双方を呼び出し調べる場所
- ⑩ 町方番所 — 町の治安維持に関する仕事をする部屋
- ⑪ 定勘定方役所 — 金銭関係の仕事をする部屋
- ⑫ 筋金所 — 金の純度を判定する筋見役等が仕事をする部屋
- ⑬ 山方役所 — 金山を取締まる山方役が仕事をする部屋
- ⑭ 地方役所 — 佐渡の相川以外の地域を取締まる地方役が仕事をする部屋
- ㉔ 詰所 — 仕事をする部屋、㉕ 支度所 — 一度をしたりする控え室

奉行所の
3つの役目

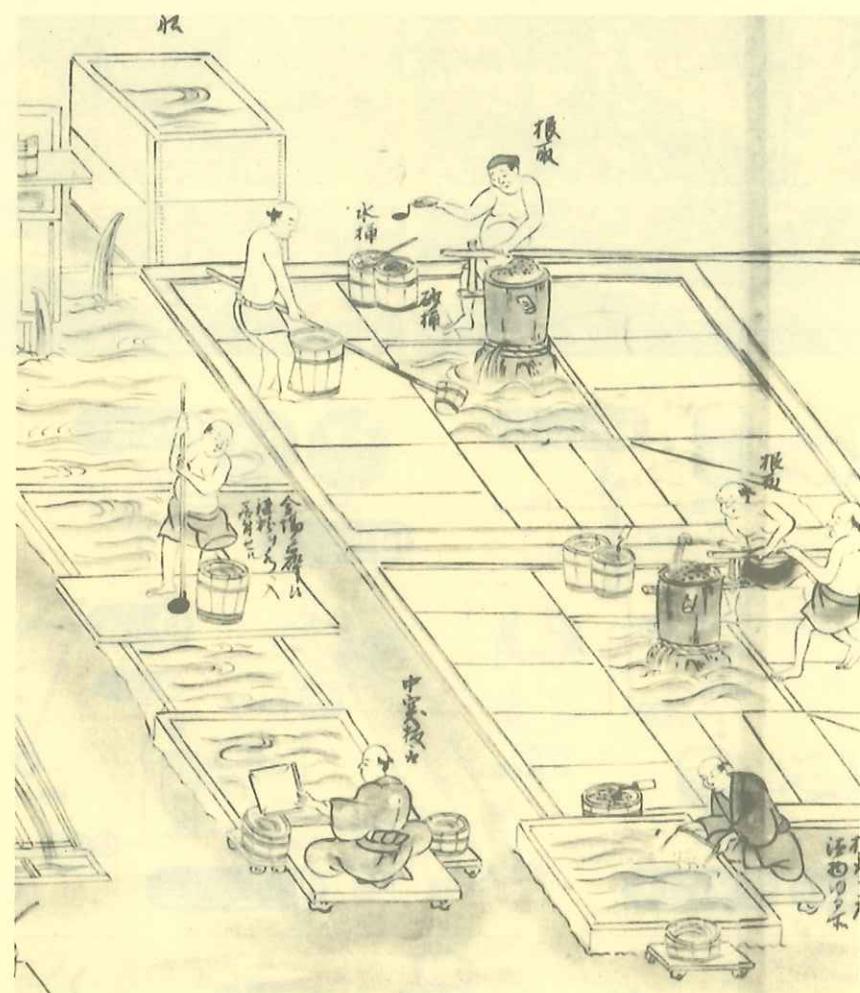
奉行所には、役所と役宅と工場がある。役所では町と島内の行政・裁判、金銀山の運営を行う。奉行の住まいは役宅と向陣屋。後期になると、寄勝場などの工場が敷地内に建てられた。

勝場 (せりば)
鉱石を粉々にして、その中から金銀を含む部分を取り出すところ。

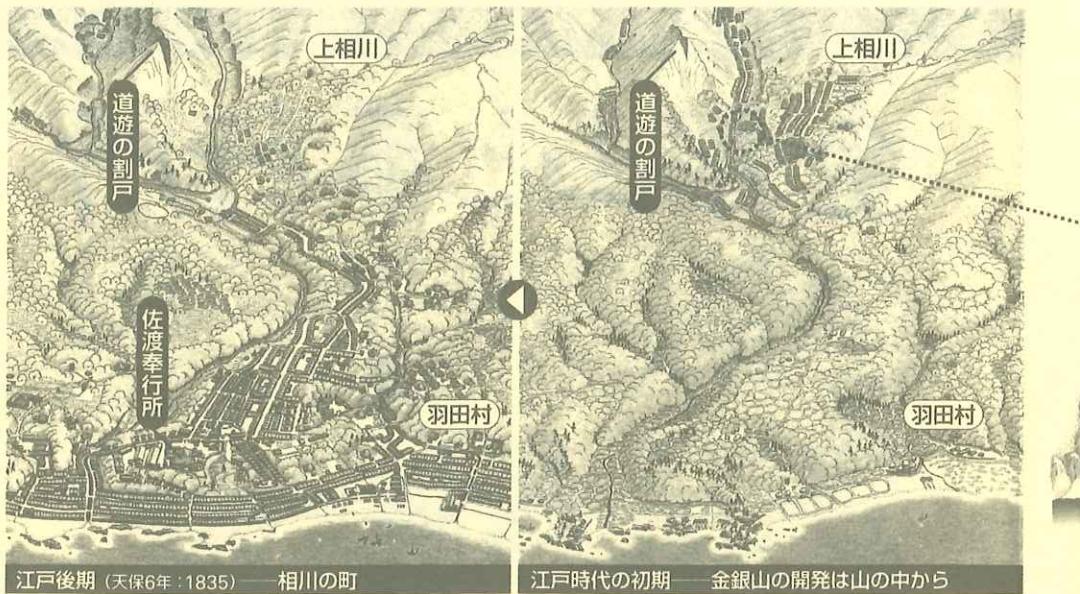
ガイド図



金銀山と奉行所

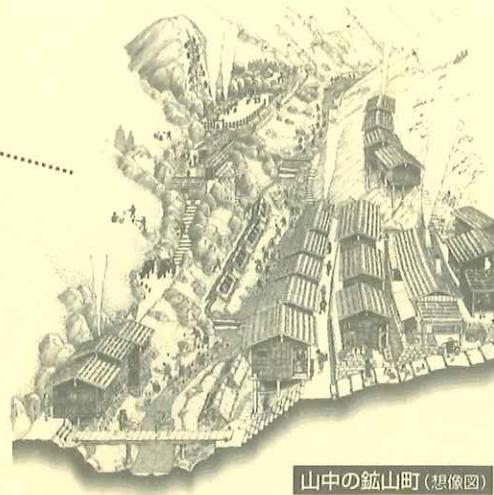


1. 町と奉行所の移りかわり
2. 発掘調査の出土品
3. 絵図と絵巻物
4. 勝場復原



江戸後期(天保6年:1835) 相川の町

江戸時代の初期 金銀山の開発は山の中から



山中の鉱山町(想像図)

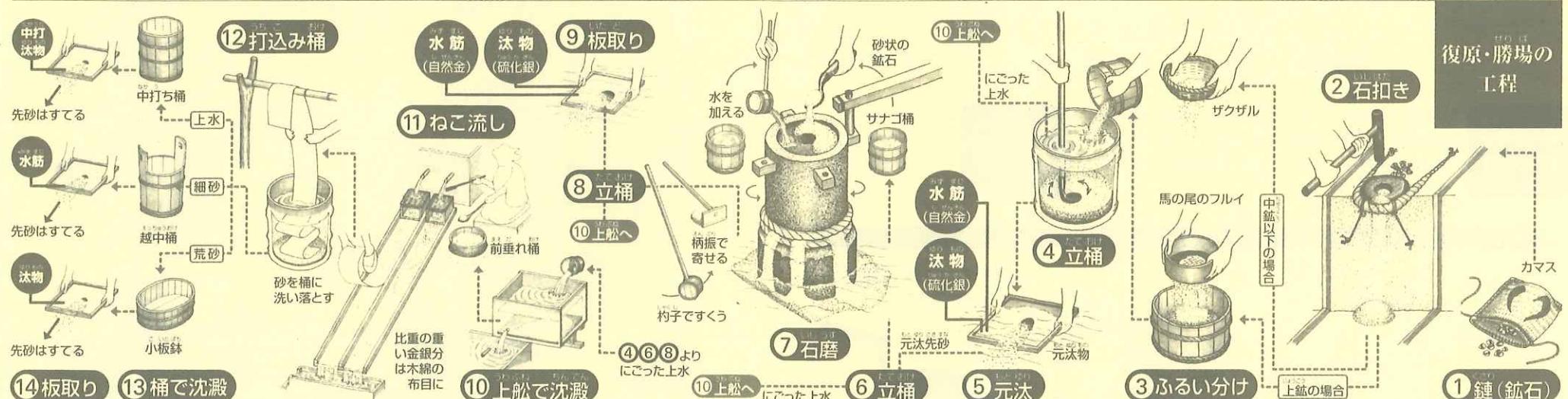
鉱石が小判になるまでの工程



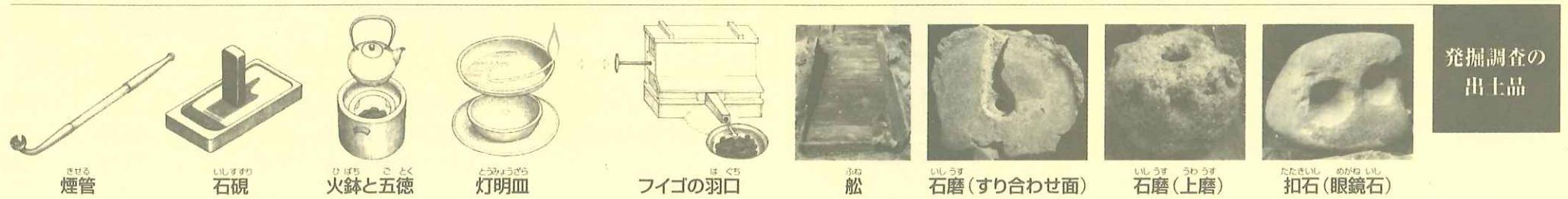
以後四〇〇年にわたり、相川は金銀山の町として大きく発展していく。
一国天領の拠点とした。

慶長六年(1602)、大金銀鉱脈が発見されると、わずか二三年で数万人働く町が、山中に出現した。慶長九年(1604)、代官・大久保長安は海岸段丘の先端に大きな敷地の陣屋(後の奉行所)を建て、佐渡

町と奉行所の移りかわり



復原・勝場の工程



発掘調査の出土品



地下水の排出

江戸時代の驚異的な生産技術

■金脈の姿

鉱脈は1枚ではなく、数十メートルから数百メートル離れて何枚もほぼ平行に存在し、その1枚も木の枝のように分かれています。

■金銀の生産量

平成元年の操業停止まで388年間に採掘した金の量は78トン、銀は2,330トンに上り、国内最大の産出量を誇る金銀山です。



明治20年(1887)日本初の架空索道(空中ケーブル)敷設
明治22年(1889)官内省御料局に所属、皇室財産となる
明治23年(1890)官内省御料局の許可の下、鉱山学校を設立
明治25年(1892)近代化完成により産金量急増。国内生産の36%を占める
明治29年(1896)三菱合資会社に払下げとなる
昭和13年(1938)東洋一の金銀鉱浮遊選鉱場建設。月7万トンの鉱石を処理
昭和18年(1943)国策による「金鉱業整備令」で規模縮小。銅生産に転換
昭和27年(1952)戦時中の乱掘等により鉱石が枯渇、佐渡鉱山大縮小
平成元年(1989)鉱石が枯渇し、3月末日操業停止



宗太夫坑コースのご案内

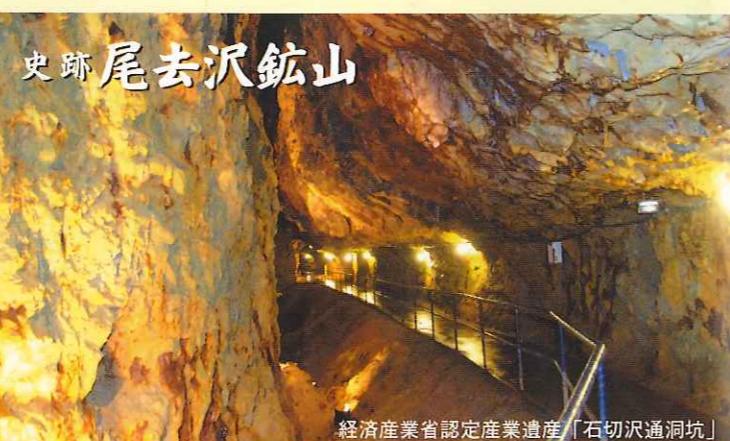
●:展示箇所

《史跡佐渡金山ごあんない》 ※坑内の気温は通年10°C前後です

●入館時間 4~10月 (8:00~17:00) 11~3月 (8:30~16:30)

●観覧所要時間 40~50分

●交通 両津から車で約50分 小木から車で約80分 相川市街から車で約5分



株式会社ゴールデン佐渡

日本最大の金銀山跡 史跡 佐渡金山

〒952-1501 新潟県佐渡市下相川1305

TEL 0259-74-2389(代表) FAX 0259-74-3235

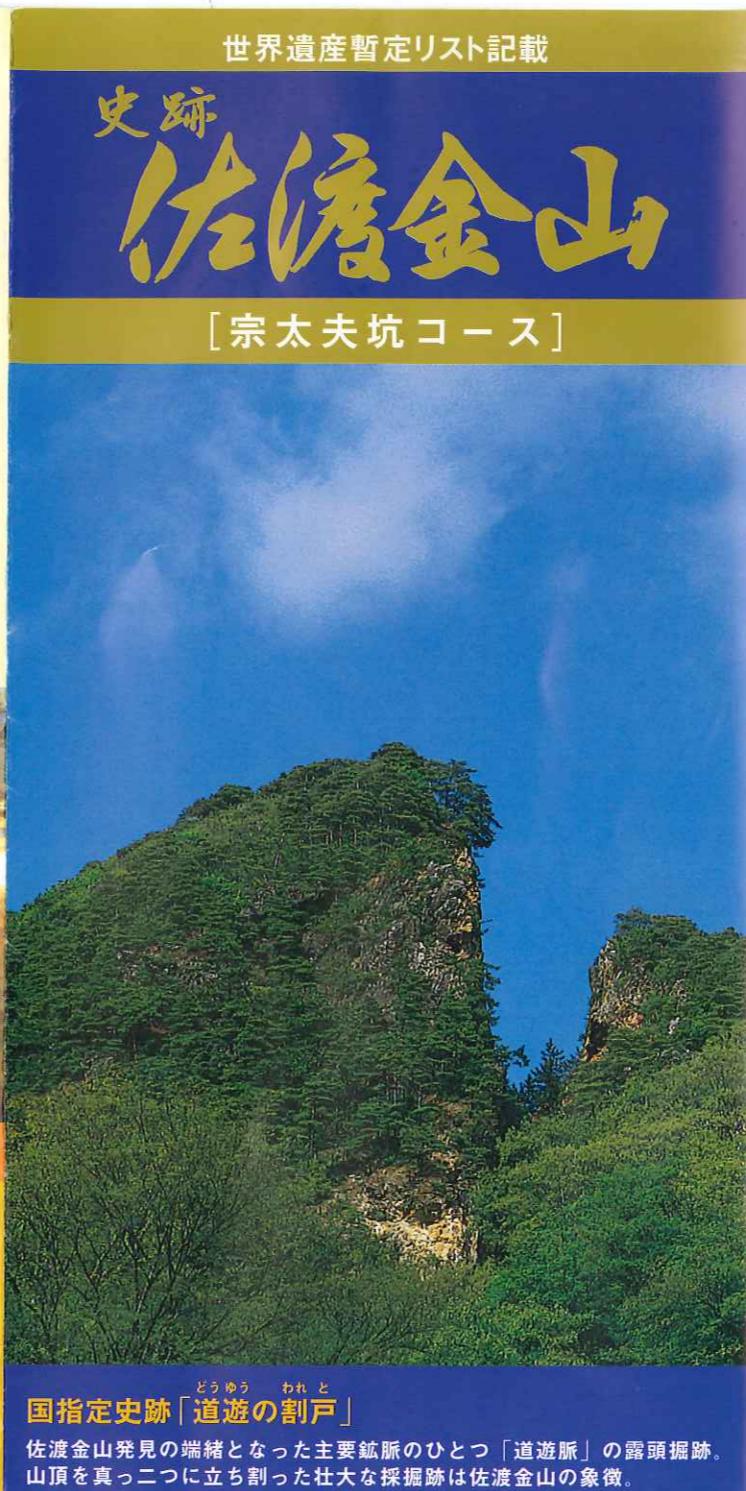
URL <http://www.sado-kinzan.com> [Mail] gsado@sado-kinzan.com

日本最大の銅鉱脈群採掘跡 史跡 尾去沢鉱山

〒018-5202 秋田県鹿角市尾去沢字獅子沢13番地5

TEL 0186-22-0123 FAX 0186-23-3217

URL <http://www.osarizawa.jp> [Mail] ml-o-kouzan@mmc.co.jp



世界遺産暫定リスト記載

史跡
佐渡金山

[宗太夫坑コース]



佐渡金山400年の歴史と

■佐渡金山の開山

慶長6年(1601)、佐渡金山の山向こう「鶴子(つるし)銀山」の山師3人により発見されたと伝えられています。産出された金銀は、江戸時代を通じて徳川幕府の財政を支えてきました。

■佐渡金山の鉱脈群と坑道の総延長

東西に3,000m、南北に600m、深さ800mの範囲に分布しており、宗太夫坑はその西の端に位置しています。開削された坑道の総延長は約400kmに及びます。

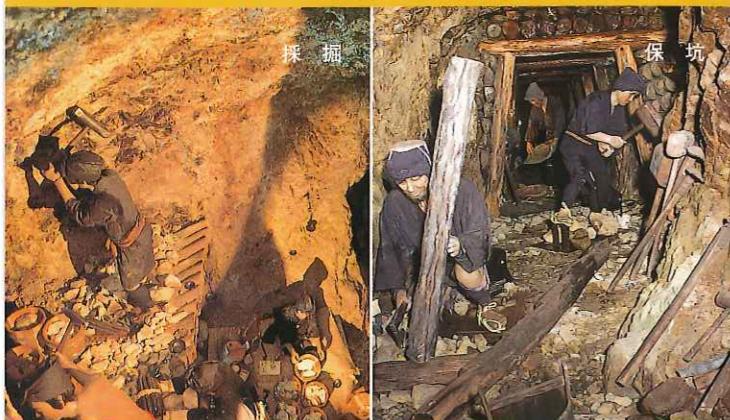
■国指定史跡「宗太夫坑」

江戸時代初期から開発された富鉱のひとつ「青盤脈」の採掘跡です。部分的に残る「将棋の駒型」の小坑道、斜坑、探鉱用の小さな狸穴、空気を取り入れるための煙穴など、江戸期の旧坑で見られる諸条件を備えており、斜坑は大型で海面下まで延びています。

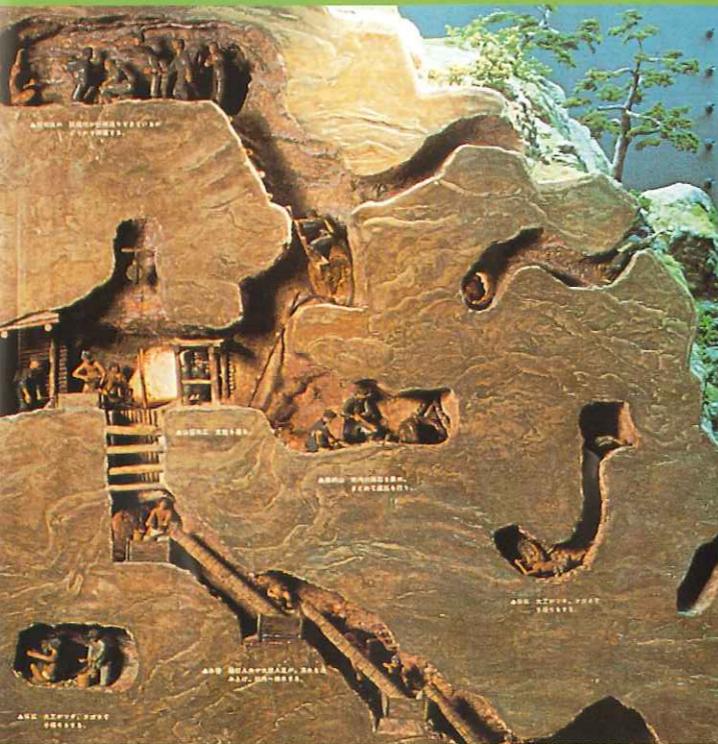
《佐渡金山の歴史》

慶長6年(1601)相川金銀山(佐渡金山)を開山(関ヶ原の戦いの翌年)
慶長9年(1604)大久保石見守長安、佐渡奉行となり相川町を首府とする
元和8年(1622)佐渡小判を造る
元禄9年(1696)坑内水排水のための南沢疎水坑道完成(延長922m)
慶応4年(1868)採掘に火薬を初めて使用
明治2年(1869)明治新政府、佐渡鉱山を官営とし、近代化を図る
明治8年(1875)独人技師を招き、日本初の洋式立坑「大立豊坑」開削
明治14年(1881)削岩機を国内で初めて採用

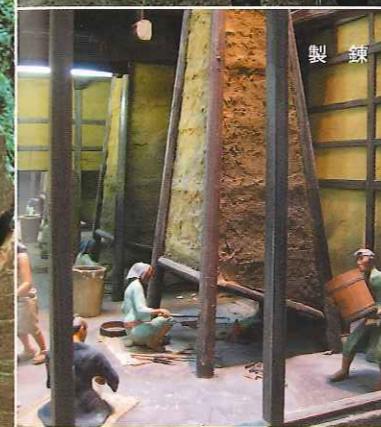
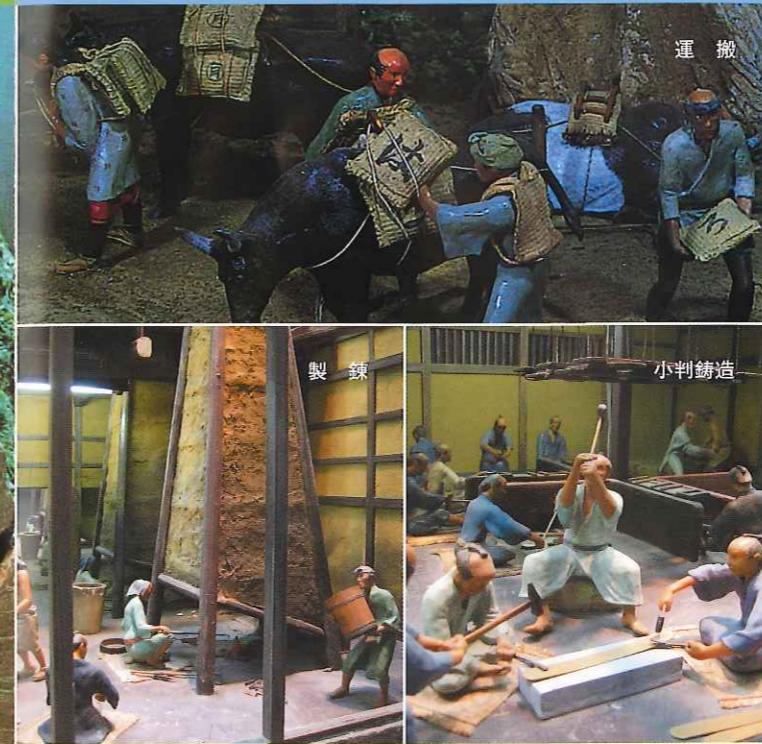
宗太夫坑 採掘、保坑、測量などの坑内労働を実物大で再現



坑内模型



第一展示室 選鉱・製錬から小判鋳造までの過程を紹介



第二展示室 佐渡金山の鉱脈全体像と小判や金製品を展示



国指定史跡南沢疎水坑



佐渡金山鉱脈模型

豊富な歴史資料に基づき 江戸時代の佐渡金山を忠実に再現

鉱石を掘る

巨大な岩盤の中に、幾重にも重なって地中深く広がる白い石英の鉱脈を掘り取っています。硬い岩盤を削るのも、鉱石を割り砕くのも、たがねとつちとくさびという簡単な道具だけで、すべて人の手による作業でした。こうして気の遠くなるほどの時間をかけて掘られた無数の空間が佐渡金山の地下深くにつらなっています。

坑道の維持

岩層の割れ目にできる鉱脈を掘り取っていく作業は、常に岩盤の崩落と隣り合わせです。採掘場そして人命を守るために、坑内のもう一部を坑木で支える山留(やまどめ)という技術が不可欠でした。また、地下水の湧出による採掘場の水没を防ぐために水替人足(みずかえにんそく)による排水作業が昼夜休みなく行われました。

運搬・手撰り

鉱石や資材の運搬には人力や牛・馬が使われました。しかし坑内から地上に鉱石を運び上げるには人力を用いる以外に、そのため佐渡金山では多くの人が働いていました。坑内から運び出された鉱石は割り砕かれ、金銀を含まない白い脈石と、金銀を含む部分とに分けられます。これを手撰りといい、おもに女性たちの仕事でした。

選鉱・製錬・小判鋳造

こうして集めた鉱石を、突き碎き、すりつぶし、金銀の砂泥とします。これを大小の炉を使い分けながら炭火による熱と化学反応によって不純物のない金銀にしていきます。炉は簡単な造りのものでしたが、その不完全さを熟練の技と気の遠くなるような繰り返しの作業で補い、こうして得られた純度99.5%の金で小判の鋳造を行っていました。

